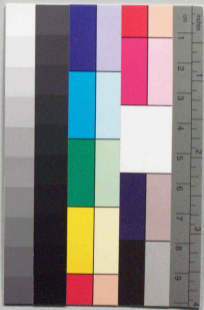


織田名士鑑



280  
才6



雷山先生撰

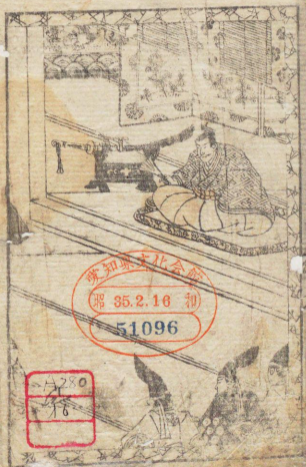
織田名士鑑全

織田

文精堂藏

280

16











又なるてぬり 隆川 大軍をせよとのち  
を調ふ 隆川 大軍をせよとのち

西御橋 龍川左衛門尉 家臣 龍川 大 茂

比叡 龍川 大 茂

比叡 龍川 大 茂

比叡 龍川 大 茂

比叡 龍川 大 茂

比叡 龍川 大 茂

比叡 龍川 大 茂

比叡 龍川 大 茂

比叡 龍川 大 茂

比叡 龍川 大 茂

比叡 龍川 大 茂

比叡 龍川 大 茂

比叡 龍川 大 茂

比叡 龍川 大 茂

比叡 龍川 大 茂

比叡 龍川 大 茂

比叡 龍川 大 茂

比叡 龍川 大 茂

比叡 龍川 大 茂

比叡 龍川 大 茂

比叡 龍川 大 茂

旗下

山路將監 正国

新田 大 茂

由良 捕 鷹 守 盛 重

山路 將 監 正 国

新田 大 茂

由良 捕 鷹 守 盛 重

山路 將 監 正 国

新田 大 茂

由良 捕 鷹 守 盛 重

山路 將 監 正 国

新田 大 茂

由良 捕 鷹 守 盛 重

山路 將 監 正 国

新田 大 茂

由良 捕 鷹 守 盛 重

山路 將 監 正 国

丹羽 龍 左 門 尉 長 英

見 為 氏 庄 長 末 丹 羽

長 末 丹 羽

長 末 丹 羽

長 末 丹 羽

長 末 丹 羽

長 末 丹 羽

長 末 丹 羽

長 末 丹 羽

長 末 丹 羽

家 臣 江 口 三 郎 左 工 門

大 矢 与 兵 衛 奥 山 雅 兵 衛

石 川 備 前 守 村 山 内 備 前 守

櫻 井 源 吉 水 取 德 次 守

南 部 重 若 工 門 永 原 実 室 院

池 田 勝 三 郎 信 輝

家 臣 池 田 丹 波

池 田 四 郎 左 門 荒 尾 但 馬

伊 木 清 兵 工 行 相 半 九 三 門

乾 兵 庫 池 田 筑 後

掛 島 花 園 十 八 方 石

池 田 勝 三 郎 信 輝

家 臣 池 田 丹 波

池 田 四 郎 左 門 荒 尾 但 馬

伊 木 清 兵 工 行 相 半 九 三 門

乾 兵 庫 池 田 筑 後

清 和 淳 氏 於 才 志 成 着 於 後





羽織田守一の屋信長免尾寺入屋と馬ノ大字三年四月廿五日  
 長久寺末光助流火河北寸輝流落白六十人の著大名と御方

番警領所  
 九、六、石石  
 羽柴統前守秀吉

尾夜中村産初中村茂吉身又  
 本、上馬、柴田丹羽、三、七、りて  
 羽織中、馬、夏白、之、之、屋、豊、氏  
 由、此、記、入、り、て、か、た、か、り、入、り  
 由、江、無、頭、羽、柴、小、一、郎、秀、長  
 八、石、石  
 秀、吉、會、身、知、名、小、給、後、美、乃  
 守、二、位、大、御、言、人、の、御、内、八、石、石  
 石、と、必、天、正、十、八、年、御、多、

家臣

浅野弥兵衛  
 羽田長門寺  
 大沢主水  
 羽田半左門  
 兼山修理亮  
 神守由半左門  
 尾藤甚左門  
 加藤虎之次  
 福島市松  
 堀尾茂助  
 片桐助作  
 脇坂甚内  
 糟谷助右門  
 加藤化内  
 同 孫六  
 石田佑三  
 兼本平内兵衛  
 仙石播兵衛  
 平野権平

旗下

河内  
 下八石  
 信長、之、り、之、り、入、郡、之、り、公、信、長、  
 之、り、之、り、之、り、之、り、之、り、之、り、  
 之、り、之、り、之、り、之、り、之、り、  
 之、り、之、り、之、り、之、り、之、り、  
 之、り、之、り、之、り、之、り、之、り、

ハ、一、石、石  
 同、小、寺  
 五、方、石  
 美、乃、香、原、山  
 二、方、石  
 八、石、石  
 小、三、角、長、信、  
 信、長、之、り、之、り、  
 生、駒、甚、女、親、正  
 黒、田、島、兵、衛、孝、隆  
 竹、中、半、兵、工、重、治  
 別、如、孫、左、門、重、棟  
 叔、父、一、家、よ、り、多、れ、て

家臣

箱田大炊  
 加島長門  
 箱田能理  
 日比六太夫  
 中野半之丞  
 中村右近  
 樋口甚八夫  
 孫田軍人  
 谷大学頭衛友  
 山内猪左衛門  
 本村小隼人重忠  
 宇多源氏信  
 宇重成が祖なり



八月二月  
尼子四郎 勝久  
泉島岸和田  
中村孫平次 一氏  
二万石  
後 則元 五郎 十八 幸 孫 孫 孫 孫  
十四方石 幸 二 中 孫 孫 孫 孫

伊予守 經久 四代 勝久 若 山 中  
一 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫  
天 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守

先王 孫 孫  
森 三九衛門 可成  
家臣  
森 十五郎

信 孫 孫  
森 武藏守 長一  
野呂助左門 春日 兵部

森 三九衛門 可成  
森 武藏守 長一  
野呂助左門 春日 兵部

長一 八 八 八 八 八 八 八 八 八 八 八 八  
長一 八 八 八 八 八 八 八 八 八 八 八 八

改 兄 武 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫  
長 一 八 八 八 八 八 八 八 八 八 八 八

尾 島 孫 孫  
松 佐 渡 守 秀 成  
平手 大 監 物 政 義

尾 島 孫 孫  
尾 島 孫 孫  
尾 島 孫 孫  
尾 島 孫 孫

爲 家 慶 代 の 臣 八 天 正 元 年 動 衆  
全 家 移 住 山 王 入

戦 中 山 十 三 万 石  
佐 内 藏 外 成 政  
作 事 三 年 盛 隆 幸 信 兄 年 人 八  
補 統 一 万 石 成 政 天 正 十 三 年  
中 一 万 石 幸 吉 兄 七 年 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年  
一 万 石 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年  
六 年 一 族 の 歌 中 一 萬 石 幸 吉 弟 一 年

加 藤 孫 一  
佐 久 間 玄 蕃 元 盛 政  
家 臣  
佐 久 間 助 左 門  
大 山 兵 部 興 田 典 勝  
中 野 半 左 衛 門 伊 藤 孫 一

和 田 九 上 門 村 天 盛 長 男 八 年 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年  
加 藤 孫 一 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年  
加 藤 孫 一 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年  
加 藤 孫 一 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年

加 藤 孫 一 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年  
加 藤 孫 一 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年  
加 藤 孫 一 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年  
加 藤 孫 一 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年

加 藤 孫 一 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年  
加 藤 孫 一 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年  
加 藤 孫 一 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年  
加 藤 孫 一 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年

加 藤 孫 一 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年  
加 藤 孫 一 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年  
加 藤 孫 一 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年  
加 藤 孫 一 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年

加 藤 孫 一 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年  
加 藤 孫 一 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年  
加 藤 孫 一 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年  
加 藤 孫 一 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年 幸 吉 弟 一 年



尾張  
十六万石

佐久間右門尉信盛  
嫡子 甚九郎

信盛も此の御多し信長も幼氣を  
あつく父子を野山に入

畿前旗山  
四万石

佐久間久右衛門文政

四万石

佐久間三左門実政

長子信盛と年長信長とを御おかれて信長はこれに又勢川流中と致すは其の  
御家でのせう御家流にござる事し七十九年上御公知高松中と致

近江細戸  
一万石

堀久太郎秀政

臣

奥田三郎左工門

後庄重頼成法前山平方在軍交  
足重より天下平八年六月病死

春日民人

美加加納  
八万石

坂井右近太丈尚房

尾張津島  
三万石

福富平左衛門正清

嫡子 久藏尚恒

近江納

菅谷九左工門長棟

近江野浦をて坂井の爲に討死

美加

齊藤新吉良龍

丹波龜山  
五十四万石

明智日向守光秀

家臣

三宅藤兵衛

嫡子十兵衛賢英  
信長も氏光も信長も公光も勲も  
さうも其のまに御討死に討死に  
男あり御子のせう人びとに人さう  
是利長兼御子に人びとに人さう  
存はずも其のまに御討死に討死に  
害くても其のまに御討死に討死に  
をのこすも其のまに御討死に討死に

齊藤内藏  
明石茂太夫  
村山和泉守  
中沢豊後守  
奥田宮内少輔  
同 勘兵衛  
比田帶刀  
明智孫十郎

明智十郎左衛門  
山本討馬守  
藤田傳五  
并川掃部  
三牧三左衛門  
清尾勝兵衛  
松田太郎左門  
妻木主斗政

丹波田原  
三万石

明智光馬少秀後

同福智

四王天但馬守政孝

丹波山  
二万石

明智治左門光忠

同八上

荒木山城守行信

近江大津  
九万石

京極近江守高次

近江  
一万石

京極若狹守高次



甲辰府中  
十二万石  
河尻与兵衛鎮吉

代子と備とりの信長列れり  
尾張  
中川右渡守宗清

尾張  
長谷川入道宗仁

尾張  
寺沢勘三郎高

尾張  
富田弥六長秀

尾張  
大垣金右衛門尉

尾張  
梶川金郎高利

尾張  
飯尾近江守定宗

尾張  
尾張公少

赤座三郎左衛門尉

溝口金兵衛尉秀勝

武井肥後守武光

前田徳喜院玄以

青山三右門秀一

山崎左馬介家長

峰谷出羽守頼隆

野村中守定常

毛利河内守秀頼

桂田播磨守長後

鏡前  
右と左と小旗ありて討れ

山城内  
村井長門守春長

尾張  
尾張

佐藤六左門信政

外様面々

筒井陽舜坊頼慶

筒井伊賀守定次

飯田民乃少輔頼直

大和志貴山  
松水輝正少輔定秀

大和志貴山  
松水輝正少輔定秀

大和志貴山  
松水輝正少輔定秀

大和志貴山  
松水輝正少輔定秀

赤座三郎左衛門尉

溝口金兵衛尉秀勝

武井肥後守武光

前田徳喜院玄以

青山三右門秀一

山崎左馬介家長

峰谷出羽守頼隆

野村中守定常

毛利河内守秀頼

桂田播磨守長後

野村中守定常

毛利河内守秀頼

桂田播磨守長後

野村中守定常

毛利河内守秀頼

桂田播磨守長後

野村中守定常

毛利河内守秀頼

桂田播磨守長後

野村中守定常

毛利河内守秀頼

桂田播磨守長後





徳少と軍我願五人三好利を以て縣を信長に討つ義我の爲に  
の平服の令と信長利討つては身守を頼りて天正五年十月五日  
の誤り筆と云ふべきなり流石なり其の自害す

直江石 八万石  
同甲賀 三万石  
河内山 五万石  
美濃大垣 六万石  
同八幡 三万石  
摂津出道 六万石  
河内若江 八万石  
三好長義の善子信長に討つ義我の  
軍の口を方と信長のゆかり

作来迫江守 義秀 一万石  
由橋九郎左門長利 一万石  
白井備後守 龍季 一万石  
稲葉印子守 貞道 一万石  
九鬼大隅守 嘉隆 一万石  
伊丹大和守 親興 一万石  
一色右近大夫 直光 一万石  
細川右衛門 一万石  
関古兵衛尉 盛信 一万石

小川七左守 祐忠 一万石  
遠山久兵衛友政 一万石  
伊藤長門守 重春 一万石

松井作 一万石  
長岡助左 一万石  
宮部善祥坊 祐全 一万石  
南条中勢大輔 嘉隆 一万石  
阿部凌雲守 貞泰 一万石  
浅見對馬守 政次 一万石  
岩成主税 重通 一万石

信濃高島 四万石  
同佐和 六万石  
同若小 三万石  
因加島 六万石  
同加島 一萬石  
信濃木重 一萬石  
田島新助 七万石

有吉郎左門 一万石  
家臣 一万石  
日根野備中守 高吉 一万石  
磯野川波守 秀昌 一万石  
小嶋備前守 元湖 一万石  
山中勢大輔 豊岡 一万石  
諏訪龍輝守 重 一万石  
木曾左馬頭 義昌 一万石  
穴山伊吕守 道祐 一万石

<p>甲斐國 山田左兵衛 信茂  <small>四万石</small>          勝野 山田 信長 小          山田 信茂          信茂 長九郎 左衛門 連          長九郎 左衛門 連          小笠原 左衛門 長九郎          長九郎 左衛門 連</p>	<p>家臣          荒木 平太夫          中西 新八郎          小川 親兵衛 尉 清泰          野村 三郎 高経</p>	<p>戸川 肥後守          長船 紀伊守          大岡 五右衛門 大老          浮田 安心 入道          花房 志磨 守          伴田 八郎</p>	<p>武田 大膳 太夫 美信          真田 要房 守 昌          大城 敬中 守 勝後          畠山 修理 太夫 美勝</p>
---	--	---	--

姉川合戦

浅井勇士鑑

書肆

文精堂藏

淺井備前守物部長政

北近江半國  
小谷城主

御淺井家の譽高深めたる小川邊の飯田郡丁井村の出生にて淺井  
勤をの重政と云ふ者あり其の後花園院の御院之際天網を為衆  
殿よりあり、邊に關丁井村小配せり、れは應の内淺井氏の根小川上  
館これ男ふか生ふる也、政氏ハ平渡内納家にては初子なり淺井の元示  
殿長を、淺井朝高甲重政後小朝高のと成り、母方の姓にて物部氏  
あり物部朝經ハ守屋大内侍の海淵と申す、政高と云ふ之際家の御海淵と云  
是輩をこれ養ふと云ふ事あり、是為國友山古の海之上坂路朝  
高備前守小位あり、是身して一子の朝高、此坂路朝高也、此小  
朝高と稱い、是れ朝高方引と云ふあり、此坂路朝高の海淵朝經引之

秘中小進入比類を只地守り、作事方六割の勇士を其に奉養公を養伏  
給ふ、味方の機利と成し、附丁井村小配と云ふ御と、政高と云ふ御は、  
殺事殺ひ、少作事方平井院を、後長朝高作中倉持朝元、同院の多長朝  
作事之を扱ひ、和賸と申す、此を隔事、朝高も、多長朝高の坂田朝  
上平小居海朝高、上坂路朝高、此も小有あり、是を極多朝高、二百を、其  
子と云ふ、又、其後、朝高の、此と云ふ、男に、上坂路朝高、此の、大守守、平春  
上坂路朝高、御死す、其の、後、朝高、御、三男、朝高、御、其の、朝高、御、其の、朝高、御、  
其の、朝高、御、其の、朝高、御、其の、朝高、御、其の、朝高、御、其の、朝高、御、  
乃、其の、朝高、御、其の、朝高、御、其の、朝高、御、其の、朝高、御、其の、朝高、御、  
之を、朝高、御、其の、朝高、御、其の、朝高、御、其の、朝高、御、其の、朝高、御、  
亮、朝高、御、其の、朝高、御、其の、朝高、御、其の、朝高、御、其の、朝高、御、

淺井備前守物部長政

氏を殺つて及運してとすまの夜中も高野をせたりと云坂浦船着  
 ちひん（ひん）の女（女）の小若小影（小若小影）を言れ士民を皆責めを成成を（成成）とす  
 振る家柄凡してその子も大のふいりう正坂を助けん人小若小  
 登内を士浦井先政とて中も（中も）とまへお積ひを徳と坂とを有段  
 ゆりせしと政首成ゆると政首を振るも津浦井成ゆると中もと云  
 河津を及多成ゆたのを使事とて使く本定教ふと海を九ひ成勢  
 一方ふと人小若小押（小若小押）とす浦井先政成ゆたの二親いそ高野の成ゆた  
 續方の船登志系小加勢を船と云ゆと若系より中若小の船登志  
 を大船とてみ中津崎天永入年九月廿八日小近江中船橋坂ふ長陣  
 ありと津浦井系系船のしありと高野の船登志より浦井先政切と云  
 景原より切もと依本系船のしありとれれと八方小故元をを浦井

船登志ひも進入り味方ふちを首殺七百余級外系船依本  
 付る若吉と云とと船ゆと七尾より浦井の船は海大王七船と云と云  
 浦井中船小入毛政傍ゆたのて上年の後を政傍ゆた船と云と云  
 延るふと先政をゆた開のまに成ゆたありと政傍ゆたと政登志  
 うひ成ゆた船をゆたゆたを開ゆたゆたゆた後船死るまに成ゆたゆ  
 ち久政と云ゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆた  
 ありて代、兄弟の長をゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆた  
 まゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆた  
 をとまんゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆた  
 ゆた一の船とて民田信をゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆた  
 うまひゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆたゆた



尤乞主を悉くあつて中子也小谷小舟の長長城対九に城を正  
 故も今に倭ををうに比其之且天命も亦もくく小水初に相立物故を成  
 阜小海城を是う倭を恒亦恒城出長政由も注も七城と城押入  
 公方への勝之故そのくん功て最上備各一恒央大將軍と城同十  
 二年一書小の城の連雲を國の法持立城中村れ長政う勝舟を  
 着千回東を引いて人史八百人常勝場を史に出物もまある西  
 繼田の人史と石つをあをを以て海を恒小水人てさたあひ一を乳  
 子の恒人史故も大勝舟も大喧嘩と城をての軍州員有段人  
 亦爾て六外國に如の港を力て觀小舟舟命の軍はて、繼田方の常  
 信實の持舟民初由徳田布と成勝舟方出千回勝舟去と初め(割  
 ち)し大ねと城てなんこの不繋命恒人死人多くは小水小  
 みるんとて繼田方の人史八百、小打負恒長長政出ら小くもく  
 小刺一其あう元より貞高人小余り繼田勝舟軍多き常表を  
 主後元恒元年恒長軍のて城を入る故もを以て勝舟ううら  
 八物束と長政を今の表をて内城小引れ恒長小水方流去一死  
 人小あうも思ち恒長の味方とまう恒長城をて付小を七繼田勝  
 城あつてらぐ打負きりの恒長死生也故阜小引れさう長  
 政恒と持上城恒長三幅うく月去月勝舟城対九と二万人小水  
 小水入るを故も元並て恒長と打負じも城持を恒長を城入  
 と城山の城出の田村はる大の末を恒長と村肥城も付各層以  
 二千人捕二りも非滅、小人殺を心無敵城あてと城うう恒  
 長恒勝二千人城中の城を攻まう城門必死の防城小攻取るに二





勝茂於坂市小五郎之旗升躬念鐵田對陣也長政尋身勇  
 け十一月廿二日旗鐵田方にて雲霧入重なる鐵田の旗を攻る  
 鐵田坂井忠と妻を討た雲霧討て老體崩れさすわの旗長旗  
 つれを 旗長坂井忠と妻を討た雲霧討て老體崩れさすわの旗長旗  
 旗長う將軍長旗の如し勅命を仰て旗升躬念和義の命を  
 躬の勅使三條大納言上使上池津勢痛辱を乞和義を命に躬  
 念も滅び去陣あつれ和義をよみて長政の旗打つていふ云  
 云人かこし能ふ和義をよんてそれ勅命をよみて十一月十二日  
 之家近衛文房よりして和義を以て旗長に坂井躬念の命を  
 儀あり由國あり長政の旗打取まら一旗し人知て入あり  
 不の旗へ着せあり妻の如く旗建丹波の鐵田 旗長ありと

大尾の旗を中流宗誓の旗をわきさ小谷小川ありとたこれ  
 より鐵田勢の少旗机あり長政長旗の旗をきりて長政  
 とりてい旗升躬念の命を乞和義を命に躬念の命を  
 奉り月長政の子入の多旗ありと長政の旗をきりて七月  
 旗長大軍より雲霧山小五郎あり長政躬念の加勢とて月  
 式初大輔とより小三万騎あり名給の旗を攻とて小三万騎あり  
 旗長躬念長政小三万騎ありとて八月十日二万人回上山地勢  
 中より手長旗ありとて八月十日二万人回上山地勢あり  
 余部を取束の事小五郎あり旗長旗外の旗長切ありと  
 万人齒地人云一之家又く對陣ありある小五郎の諸士長

龍崎くろくろみで織田人降参多きこれより親会方勢凡成り  
 ちひ親会勢も北に越後越前中略し凡の織田方より北に  
 入り北に攻め入るて八月廿日長島一帯を占め入る参来攻る  
 自教人攻め親会亡びこれ以後長島城方の陣を度々度々  
 小入り討入り凡の陣の事より成り切参り攻め入るは廿日  
 廿九日ありつゝ長島自教方より参り攻め入るは九月廿二日  
 長島父の自教とて参り攻め入ると討くお血戦なり一  
 舟の雲上浅井福壽長利を以舟同小舟舟中参り七舟中島  
 九舟の舟同舟 同上之殿攻め八舟同長島城参りて七艘  
 ままに成りて討死する長島を以長島二の舟ふりて参り  
 及作の船を以て討死する四艘を以て舟中参り七舟中島  
 浅井備後中清政 世江幡津居 浅井四郎兵衛惟政  
 浅井の二を以て長島の旗原妻と 浅政の長子とあり参り後小  
 七島も参り一の人あり 参り入る長島といふ

浅井石見守明政

浅井福壽軒惟安首座

浅井備後之三男之長政小孫の 浅政の二男久政の諸人より  
 徳政亦強功多く中島城の陣生 功あり久政生堂の長子  
 捕れ候を以て取らせりて自教と

浅井越後守貞政

浅井玄蕃元

徳政の二男毎度功あり後小 長政の重臣より徳政の舎弟  
 國康より仕り 先陣を以て後小を死

浅井縫殿介

將川の合戦小次功成りし  
修ふち丸

高宮三河守

高宮の城主元来徳家臣之

赤田信濃守

一方の大将分て重小切多し後信人

日頼播磨守

元来徳家の臣長之沙井小次

ね度功者

阿閔淡路守 山本山城主

同 万五郎貞茂

元来徳の臣あり沙井小次一職

勇とつゝ其害の隣をよつゝ

懐長これ 教明智小次郎 出陣の

級軍小次郎あり小次郎

千田木女正 十田城主

沙井家の老臣之長政古いまのく派

人とは小角之次郎の臣

浅井新八郎

長政の二子小次郎ありて長政より  
み伝長小次郎

大宇大和守

一方の大将之小次郎の長政

宮部善祥坊全

友田五世三行 田中文六工

元来徳家の臣長之沙井小次郎

後信人の城主とあり後小次郎

小次郎ありて長政のつて長政の

職をせむ徳長教をあると教を

ね度大功あり後兼羽柴長

小つゝ

安養寺三郎左門経世

長政の二子再四の臣あり

川合親小次郎ありて生捕らる

ありし小次郎内荒重の長政

身代ありて長政の臣あり

余より上り長政の長政あり

を攻め長政を分たし小次郎あり

後長政を以ては入るて門あり

東野左馬介

志津城城主

浅見大學

壹蓮城主

元龜二年三月信長討伐小幡  
勘次もつ敵の大軍成りて

元龜二年三月信長の大軍成りて  
信長に功滿枝の勇

淺見對馬守

赤松家の兵柄より小幡為城  
のこけ討死

赤尾美作守清綱  
浅井の赤松とて赤松の一人  
小幡為城の附生家

三田村左衛門全秀後

系族の二そより横山の城と  
り織田の大軍成りて後小幡  
故に捕れ成り切らる

山崎源太左衛門

山崎城主

代々山崎の城より後小幡也  
小幡又羽柴小幡九条と

磯野丹波守秀昌

佐和山城主

萩原城主  
竹本城主

野村肥後守幸光

同 兵衛頭定光

富原新太郎

浅井家の第一の勇将とて美濃合  
戦小幡陣より大勇をあらわ  
す所ありて織田の徳兵衛と破  
敗升久我をもちえ佐長叔  
政とのとより由屋を後小幡  
長為小幡められ長改成りて  
とありて織田とあつて

作事多の善戦佐長叔の法  
あり永源七年長改英法丸  
引元の河原にあり谷飯小幡光角  
身経成りてとてこれ控警助  
と名なり討てかると千文子の陸  
より倒し勤王義経討け折川合  
より小幡織田と戦ひ文助の法  
せめて功あり長改生かぬ織田  
小幡と小幡安堵也

遠藤喜右衛門直継

遠藤喜右衛門直継

を名取若くは遠の浅瀬大勇  
双の人なり名取をその名依長成  
付んと成り上と孫を継ぐといふ  
久段用ひは門合發敵といふ  
首一ツ引さげ面作小島成を名依  
長の跡中へまだけ入る小島成  
をさえとするお成所中又作重門  
小足あつたれ終ふも死

中嶋宗左衛門

大尾城主

浅井久段の老元之助を敵切わり  
小居中元とて生さる

伊黒室仙坊

伊黒 堀江傳左門  
城主

長段成らうみ鐵田小つみ長段  
つろく伊黒の城をせむ室仙坊  
防ぐゆあつた城をばせ出奔

堀十郎

樋口三郎共  
多羅尾右近  
川相後守  
二川平左衛門

堀十郎切事身小つりて  
人捕快一七鐵田と鐵山の小  
本中 小島めづれ鐵田小居  
浅井成中つ大功あり

大野木土佐守國後横山城主

鐵山の城主とて鐵田の大軍  
を中と殺度後小生さるれ  
首成るゆら。

井口越前守

井口城主

浅井の老元より浅井より功  
多く小居小て生さる

雨森主計

浅井亮成よりつ又高き第一の  
旧居より浅井の守如者と只

海北刑部綱親

浅井亮成の功居を浅井乃  
守如者の入る

新庄越前守直定

新庄城主

同 駿河守

依本の一とく系後の跡下浅井  
小居一依長小つみ

黒田長兵衛

本郷城主

黒田宗盛湯宗成の浅瀬南河内守  
連大寺信濃守

浅井亮功多段小つ方と知らる

日 日 日 日 日 日 日 日

日 日 日 日 日 日 日 日

赤尾新云湯

狭 地内之分

細江右馬今

狹野之帝云湯

弓削云帝湯

上坂孫太帝

安養宮基八帝

淺井新七帝

因辺来 内

今村十皇弟

西山丹起弟

八木興一皇弟

中鴻九命次帝

月 興 三 日

服坂墓物

赤尾虎次弟

阿内素云帝

細江久云湯

因辺久六

淺井敏次今

吉地右弟

中鴻日向古

中是德九帝次帝

卑川吉云湯

今村掃初弟

上坂又助

上坂次右弟

書卷長八帝

日 日

赤尾勳石

八木又八帝

熊谷速云湯

狹野太帝基

淺井七帝

中鴻孫云湯

服坂勳心帝

赤尾加云湯

月 新 今

千因新次帝

八因勳七帝

川先三河古

難江又一帝

# 姉川合戰

# 朝倉 淺倉名士鑑

書肆

文精堂藏

朝倉左衛門督目下部義景 越前

孝熙帝（孝熙）後胤（胤）ありて源金時（金時）代目下初を討射をり、壬子馬の百実  
小妻一、源頼朝（頼朝）解より丹後國朝来を以て朝来氏と改む此時  
川（川）の河をめぐりて定姓と改むき命を以て右木此を家紋とせし  
後胤臣村家の一族斯の尾張も多経の孫と成朝倉小波打  
斯波七老臣（七老臣）朝倉（朝倉）織田（織田）の一人中へ織部小波打文明年中  
織部國初ありて朝倉源は敏業上意代多子宮澤山の運送を亡び  
一國法儀に渡りて居斯の義成を國小入生感是成押願、成成  
小國小波打入渡りてさうへ討伐して能實敏中の敵と戦ひ勝村波打  
もへ勝は貞永（貞永）の使將也御軍成義の四味方と大に列小

攻入今感恩の誠を攻成、作木を頼中波山小進入朝倉貞永子  
功比頼よりよりく近國の諸將誠を成りてあり、そ多海は是孝  
系の代小及び大永貞永九月小波打小谷の誠は渡井新九年亮成  
系極作、木の志家小永永、そ小波打進込小ありより朝倉へ  
加勢を以て孝系を極多り、志家の弓矢を射む渡井成成、そ小  
波將小あり、と叔父小太郎朝倉敏成大ととて又入に列へ出  
陣あり九月廿八日、北に於捕攻小長神、小谷の誠へ外廓を以て  
渡井成成必死小捕籠り多り、又作、木定頼系極多り、志家、右方又  
進山一面下りて永永あり、史朝倉の出陣成りて誠云、湯魚の水を以  
て、そとく作、木系極二、小小、後信成防ん、朝倉の先陣  
陣の中勢也、系極朝倉九年亮入通伊丹、大抵系波小先陣也

おめだにけりて刻々入敷系女奴の勇將老來記を三層と云はりし  
 小和をいつたれりやよ小令成亮れよも将一系を合渡小比世強將  
 勇士さらち作と左方の馬関長田後夜を切羽七瀬川より渡舟を西に  
 七五系極と改質実なる敵八五よふる門く敷をあり討ち着たれ  
 初とを朝倉濱舟十分敵候らひまふ小谷の城小入馬政十死一生の  
 思ひをのり孫小和をまも女家筋奉の交り兄弟の思ひ成渡一兩け  
 合意を契給つて朝倉教系八城並河陣を以備攻の城小朝  
 倉の身入奉中勇士二百八十渡舟の身入二百十討死号より作よ小  
 系極ふまひ攻まらとる一侍小渡舟家成興行する同七年河波  
 公方兼維上流とせ細川隆元留山兼豊細川晴元遊作源宗政入  
 足門長晴方方の細川兼隆とて同作小和兼極をの島小城中

神保推各隘山路を兼ちとて戦入味方志小和をふる之より更長  
 晴方朝倉老兼の陣代に合宿教系千子丸奔陣の系紀平平也  
 小和かり怒然力なり一教系遊作源宗を付た世より更討色  
 成勇天下小和れり孝兼老の加ふるさ川渡の口飯をの八教系八  
 八通て宗嘯と見毛朝倉一の良將也以清元年九月八日八十五  
 て病死と兼系由長死中て千子丸の督長系之永禄八年五月  
 十九日系兼少二孫松木小將軍兼輝成兼一河成兼兼老信正  
 小和五兼輝の弟南都一条院の唱會兼兼をの初んをせ銀以兼  
 孝二好及出實兼を勤けけり兼兼兼小和兼兼をの初んをせ銀以兼  
 年の老史史より長徳ふのつれ成田長統より六年外成徳か  
 城本の相合八大家あり兼兼兼のいと城本合う初より動也



遷居して新將軍義昭と改む凡の疾天への運無延候を義宗よ  
みたりふれ人の以附有疾の誠主延候七有義宗は老むわんを  
証し義宗より討て成るい一合戦急あり看取和議を命し一宗是  
如聖人義宗一様宗忠は白土城本小及入る候念病也ま宗義宗  
ふ病死して慈陽六万あり七日又義宗成ふりて將軍海澄の年  
長むひひりて義昭の屋列へ移り織田長長を討て長長半速腹  
義宗一門十一年將軍の信也七万人都本及入る候松本清茂也  
長長の勢ひ健太ありある小朝倉へ先廻り月一節飯の初日也  
不和あり長長事ひ小越前を及んと義宗不上置候命に義宗も在  
候長小退りてと返事小も及むと門く元龜元年正月長長方  
人若使より城本小及入る節少味の派を成し被討りて二一宗谷を

丸入るを義宗おててしして史載を重地小引入候并長政朝倉の  
和勝とて織田の政隆候を切と小織田内ゆまといりり朝倉  
宗義門死とてさうい候長を討んと押奉り義宗大のふりて  
二万人打て出候田勢あり小の向く候ゆまを朝倉勢退討り長政  
隆進の備方小退りて前候とて殺候知り義宗系ひ勝ひ小宗と  
濱井宗光先とて天降小及入る西義宗病死也一宗谷小引り  
織田長長先賢候のう候并長政を宗小討んと二万人月廿日小宗  
義宗宗義を宗義候をまめと長政より長政つりて揚の事候引り  
義宗宗義の事候中宗義候とて朝倉九年宗義  
他一万六千人小林直用引谷密とて月無る候義宗入候時  
命先陣之也一門大森下野宗義陣あり月七八日柳川の中知

明言多七編

あつて渡井湖倉南の方の鐵田條也といふ處に於て其國の大旗を  
渡井の八十八人鐵田の二万八千人を以て戰ふ朝倉の兵八人のみは  
と勇戦ふ給ふと勝敗小く朝倉方の勇まき討死す一九月  
渡井城を以て備すの終小なるを以て後長祿御田條に  
ありて一好と難し石山の門を以て守り難し御田條に  
と九月九月五日を以て三万人出陣せ渡井城に攻め入り  
比尋常となく和未田の備小くし渡井城に攻め入り  
と七月に於て宗繼國九率兵法速に攻め入り城二を以て捕り  
月十日渡井朝倉の兵は城攻めを以て終に法を以て傷むる馬分  
宗春の死を以て是れ鐵田條にすくんと討く出陣す不討死衆の  
如く是れ法田條又八率出陣す一將出陣す不討死衆の

渡井とて小敵を其為と爲さんと其之を不攻むる鐵田の兵は  
武將と稱せし肥田を以て其國の兵入懸成りて必死す  
戦ふ一兵減小及び朝倉渡井より先坂を以て揚る長は  
直成き半速に入り坂中より渡井城に入る方より二万の  
人殺すに對陣とせし目足將を以て七人殺すに戦ひ多  
其の不知とて鐵田方の糧米を燒んと同十月廿日朝倉より  
出陣其の兵九率出陣す渡井より渡井を以て糧米を以て  
給成りて其の兵九率出陣す鐵田の兵小押さる鐵田の兵  
其の坂井右近を以て鐵田の兵を以て討死す鐵田の兵は  
其の討死す鐵田の兵を以て討死す鐵田の兵は其の討死す  
引らす鐵田の方出陣糧米を燒れ其國の御將渡井を以て討死す

のさす、老成田信玄迎て攻めしは、又之が石山門迄攻めたるの  
 國圖中て、その後長進道と云ふまゝ、引附て逃ゆしか令へし  
 攻ん中要害なるの比較出陣并朝倉の大軍山法陣と云ふ所の  
 中んと云ふ、さう後長將軍永昭小僧の奉因を以て之命成り和  
 睦は之をさ由の跡ふ及んで物復し藤入船を上げ上野中勢を捕し門  
 小寺、物成度傳へ朝倉降し、備田の家和着たり、成り成り切たるを  
 養兼、長政切命の也、さう上野中、あつた、紀元、文、た、く、せ、せ、せ  
 沖、使、の、あ、り、是、より、長、兼、が、攻、め、早、小、僧、降、し、朝、倉、も、由、圖、之、成、業  
 長、政、の、さ、す、と、和、睦、を、男、と、ま、れ、と、あ、ら、せ、今、二十、日、も、さ、う、さ、う、さ、う、  
 後、長、兼、復、つ、つ、と、モ、家、降、れ、小、寺、一、軍、小、僧、部、分、初、倉、の、  
 國、運、多、く、成、せ、し、も、さ、う、有、ま、ま、之、同、一、年、春、長、兼、因、畠、中、之、攻、め

丹波と備前(陸奥)より、又、矢見城、中、海、宗、元、為、小、僧、老、危、く  
 小、僧、小、僧、見、さ、う、さ、う、さ、ち、和、睦、大、れ、降、し、長、兼、と、成、り、成、業、の、出、  
 陣、成、り、成、業、長、兼、の、武、勇、也、と、小、僧、と、大、の、小、僧、さ、う、引、附、か、馬、  
 也、し、老、天、元、年、八、月、九、日、數、變、を、か、陣、子、春、兼、兼、の、後、長、兼、の、  
 と、さ、の、討、死、ん、と、三、万、六、千、人、同、十、日、春、兼、大、つ、の、後、復、つ、あ、り、て、新、軍、を  
 立、田、神、山、小、僧、也、務、山、余、右、の、原、本、の、年、迎、ま、せ、降、れ、さ、う、大、敵、の、攻、  
 中、の、母、君、形、の、子、補、小、僧、兼、兼、也、豊、原、聖、光、院、の、九、歳、丹、の、丹、に、被、り、  
 ち、牛、田、聖、女、之、の、九、歳、尼、小、僧、聖、對、馬、丁、野、越、兼、兼、中、海、宗、元、紀、元、門、  
 年、由、來、も、の、大、泉、院、聖、光、院、志、降、け、撥、ら、る、東、の、大、島、及、西、宮、丹、兼、兼、の、西、  
 の、大、島、兼、兼、を、入、を、朝、倉、云、也、と、さ、う、其、分、を、入、を、兼、兼、馬、中、八、朝、日、小、  
 僧、か、丸、瀧、刀、ひ、さ、さ、う、林、の、福、徳、の、や、く、後、地、大、角、ち、八、方、小、僧、り、大、

石大木茂種中ね勇兒を以て志を息軍二万六千餘騎小谷云法師  
 其後藤原亦亦中へ敵將治其一方人林と貞虎は在中より平一箇不陸  
 かのとがわりのとて對陣すし情の對陣を亦亦我勇兒さん方勇  
 士朝倉右生清朝又中九常始其月中勢也月去其月次解放の治の  
 狂驚て中へ勢敵多の事亦波老を為小林の中中も其後中中も亦或ハ  
 病死又ハ討死令一未馳を言さきりの多々其ひ千願目か一老成ハ勇  
 力首の誠奉ふらめさう人も恐れお怖多う獲小義景の端老を  
 武勇を為されさう織田方大謀事と身一不りおる也其下志を命  
 勇者の斗策七朝倉の亦民亦波九節去清南田保六毛谷七之也  
 未織田一源来る一入蘇志降を敵為滅して着来るを陣不進入り  
 是より朝倉方勢以微少てむむく前共對陣をがて一先義景一

第... 山崎... 絶世... 後... 内

八月... 陣... 大... 陣... 織田... 源

是... 陣... 織田... 源

単... 織田... 源

朝... 織田... 源

新... 織田... 源

山... 織田... 源

方... 織田... 源

室... 織田... 源

知ぬらふ小守將又補に表す一病多成病んとて養素を怠りこれとて  
事おぼろぎ一熟一命を自の命小自致をまは事いず一病終せし

七鎮八倒四十年中 無自無他四大本空  
傳代の人入息居の暇くわのひく小守將は將大補ふ切へ入控居る人  
討死又退散を一朝命のたす中流小絶絶あり

朝倉左衛門尉景景 教賀 郡司

朝倉九郎左衛門景紀 同上

朝倉源五景景の子守源五景景  
の身初小守將との入五双の身體は  
て期景景若末を分派代とて  
源五の頼小保切は頼と入道  
丹との入

あて宗備との入源九年九月  
八會平身そ一書を各小病死

朝倉中務丞景恒 五万石  
宗道入道伊豆の支之忠を一身一人  
に保備小保切はくは小保を  
むらむら奴尾との入とて景景景  
の附保中保の中保要備を二

朝倉右兵衛尉景隆

朝倉貞景の二男を小保保切あり

朝倉太郎左衛門景忱

景紀のふく守せして二男の保中く  
あつて保保保の氣保との入

朝倉玄蕃助景連

朝倉次郎左衛門景尚

景景景景の三男退死は小保保切

元龜元年は保備の大將に  
織田の大軍出陣く多て大力を二二の  
保保保保を二保保の保保保保保保

付死

守保保保にまは保保の保保保保

朝倉孫三郎景健

西の首の六郎の諸事切あり

景孫の附諸事切あり

朝倉八部少輔鏡

有中城生  
三可石

系流の子初孫八部と号し武重

の才にしが景孫の及し本末ち小

て景孫の首流はて鐵田と更流り

係長不義をゆむとのと平順小

を係りし西天正五年一旗の首

小討死

伊勢右衛門郎景茂

伊勢守常武重の流胤也朝倉の

角勇に諸事切あり景孫少少一

旗をふり

小林備中守

越前大野  
二カ石

入道七徳月形と居七旗川の

先陣也大軍中少討死也

先祖の流胤也附代小林新守

河の流胤也景の首尾小林備

河の系孫あり

朝倉土佐守

引多にふて子景孫景進也討死

朝倉三郎

景健の首也、鐵功も討死

朝倉婦部介

鐵功も討死あり

朝倉彦四郎

もて西田守景孫の諸事切あり

を討つに寸由取らんと景孫危

をまきひし父也討死

前波郎共衛吉繼

越前前波  
二カ石

景健の首也の大首也七人殺持

九郎景孫個下小林仍味り娘成

妻は景孫と七新右衛門景孫は小

を討て景孫小討し景孫源景龍

景孫の首也七九郎景孫

景孫の首也七九郎景孫

前波孫右衛門景定

朝倉の首尾也九郎景孫の首也

黒田備中守豊平一カノ  
缺前黒坂

大徳成まじりの敷まじり 二カノ勇上まじりの師

川の先まじり中まじりの舟まじり 善まじり付まじり死

窪田九郎右衛門

大勇まじり之まじり 勝まじり川まじり 念まじり哉まじり 功まじりをまじり 病まじり死

齋藤刑部少輔

大嶽山まじりのまじり 峯まじり 次まじり ちまじりりまじり 小まじり 腹まじり

死まじり 四まじり 人まじり とまじり せまじり 成まじり 希まじり 波まじり 右まじり 健まじり のまじり 境まじり 又まじり

是まじり 鐵まじり 回まじり 降まじり 来まじり

山崎七郎左衛門吉延

吉延まじり のまじり 長まじり 男まじり 又まじり とまじり せまじり りまじり 小まじり 付まじり 死

山崎新左衛門

吉延まじり 三まじり 男まじり 又まじり のまじり 討まじり 死まじり をまじり 身まじり 付まじり 死

和田三郎左衛門

新まじり 村まじり 新まじり 盛まじり 後まじり 丸まじり のまじり 善まじり 付まじり 死

和田清左衛門吉次

同まじり 人まじり 身まじり 付まじり 死

鯉淵將監吉廣

大まじり 力まじり 量まじり とまじり せまじり 多まじり 小まじり 敷まじり 多まじり 付まじり 死

前波新八郎

同まじり 新まじり 九まじり 郎まじり

九まじり 弟まじり 長まじり 海まじり のまじり 二まじり 旗まじり ちまじり りまじり 月まじり 人まじり 身まじり 付まじり 死

勇まじり りまじり ぬまじり れまじり 多まじり 勝まじり 川まじり 電まじり 付まじり 死

山崎長門守吉家

相まじり 倉まじり のまじり 身まじり 一まじり のまじり 條まじり 長まじり 由まじり 之まじり 為まじり 為まじり 條

事まじり 成まじり 秘まじり 鐵まじり 回まじり とまじり せまじり りまじり 智まじり 備まじり のまじり 上まじり

之まじり 取まじり 乘まじり 刻まじり のまじり 内まじり 以まじり 渡まじり 敷まじり のまじり 大まじり 陣まじり 上まじり

投まじり 為まじり 敵まじり をまじり 六まじり のまじり 身まじり 一まじり 八まじり 人まじり 突まじり 必まじり 集まじり

若まじり 田まじり 又まじり 死まじり 為まじり のまじり 身まじり 一まじり 小まじり 付まじり 死

神波九郎兵衛吉久

形まじり 倉まじり のまじり 四まじり 長まじり 松まじり 多まじり 功まじり ありまじり 身まじり 一まじり 小まじり 付まじり 死

山内弥六左衛門

先まじり 新まじり 波まじり 家まじり のまじり 長まじり 月まじり 平まじり 電まじり 付まじり 死

壁田圖書吉澄

先まじり 斯まじり 波まじり 家まじり のまじり 長まじり 萬まじり 家まじり 平まじり 一まじり 付まじり 死

壁田七郎兵衛吉房

吉房まじり のまじり 子まじり 又まじり とまじり せまじり りまじり 小まじり 付まじり 死

永田總兵衛宗後

義まじり 系まじり 河まじり 内まじり のまじり 舟まじり ちまじり 死

田尻十郎左衛門奏勝

我系いづれの淵ふちも丸まる

西嶋彦五郎吉高

月つきの中なかでな其その名なもも在あららしし死し

河合安藝守

弟あにをを承うりりてて返かへりりてて保たもつつ日ひ也や也や也や

色治部大輔

月つきの中なかでな也や也や也や

神波宮内介

月つきの中なかでな也や也や也や

堀江七郎景忠

堀江七郎景忠 二万七千石

家因の子こも、高たか家たけ一ひとの人ひとも

於お戦たたかつつく、修あや者もののしああふふ返かへ送まわ

去いてい減く不ふ潔けつとと公こう方ほう我われ昭あきのしり

ううひひああてて如ごとくく入いりりてて進すすままるる一ひと投な

我われをを承うりりてて大おほ將しやうとと行いははるる

とと今いま我われももたたままははるるとと弟あにとと改かへむ

後のち和わららびびてて城しろ布ふへへううす

魚住備後守

越前魚住 城上

武勇ぶゆうの人ひと之の諸もろ而も小こ功こう名な多たし

訛見越後守

先まづいいふふ事こと象さうちちのの丸まる籠かごりりののイイガ

我われ系いづれ小こ供たけううへへくく遷うつりりてて備たもつつ

中なかそそもも名なをを承うりりてて門かどをを守まもららしし

死しののそそれれ解とけけせせふ

万恨千悲有葛然

誰圖今夜溺黄泉

故鄉更莫成愁淚

屍曝戰場只是天

よよららひひののいいふふ事こと小こ入いりりてて備たもつつ

堀江中務景經

利き仁に公こう軍ぐんのの後のち加かららははりり基もと

のの末すえもも胡こ倉くら然ぜんふふははりり

我われ功こうをを承うりりてて名なをを守まもららしし

堀江三郎景用

系いづれ經の子こもも約やく倉くら如ごとくく乃なり

執と持とりりてて我われ城しろをを守まもららしし

諸もろ人ひと多たくくもも教おしええるる事こと多たし

諸もろ而ものの小こ功こう名な多たし

横よこ坂さかのの合あ戦たたかひひ大おほ勇ゆう也や



相馬 値天坊

元小無國の生れに子細有て然希小  
奉うま酒の食空と兼力二石余酒り  
一度小六の酒と香二升の念也云々  
生か死後陳尸被布蓋母教の大將  
史廿二用の被成け来方ま毛身  
の史七又二寸幅川合骸小大勢と并  
被り久小わあぐ付死

印牧 弥六左衛門

被若一用の被成け来方ま毛身  
福岡石見守

真柄 十郎左衛門直基  
同 十郎三郎直基

其柄一帯千尋虚弱七の鼻大五田  
子りひひ及れりるをの所とせ  
女あり磯りれり毛をま、はば後小走  
出生ま百今陰力七二帯余射押  
余骸小をの勇士を多く酒を飲小  
被八尋一尋のひ小付死ま毛身二  
父小ををら大カ一尋子とのたをを  
父の付死を子を被の持を初合を

福岡 石見守

川多由て鐵國史主捕れは長巻  
畢成印及取んと人洋成りまの  
生を悦び毛ねろて切腹せま取の我  
するると諸人かん秘せ  
相馬家の看一の回長多清  
小おくと功あわわ大勇の英士  
少て我の居出一寸も退は

及田 右邊

伴波 基四郎

丸波 九郎

萩原 八通

三田 采女

三郎 傳保七郎

同村 九郎

同村 九郎

同村 九郎

小泉 宗兵衛

上田 三郎

木本 五郎

中村 兵衛

西田 中助

土山 新右衛門

赤坂 辰次郎

渡辺 宗兵衛

野田 宗兵衛

村上 新助

村井 辰次郎

村松 辰次郎

村松 辰次郎

村名

考升之集  
愛任典福

日 太集  
谷 集之

日 寶平西  
寶平西

日 寶平西  
寶平西

日 寶平西  
寶平西

日 寶平西  
寶平西

日 寶平西  
寶平西

日 寶平西  
寶平西

勝連系右系

毛谷猪之今

日 甚内

日 七之今

日 考升上七系

日 考升上七系

日 考升上七系

日 考升上七系

日 考升上七系

村 柳之村

村 柳之村

村 柳之村

村 柳之村

村 柳之村

村 柳之村

村 柳之村

村 柳之村

村 柳之村

湯淺四郎氏寄贈

169

来子部

好太

好太

伊藤好太

卜

